



本会が7月に実施した「おおあさ絵本・児童書展示会」。仕事で本に関わる人や子どもの本に関心のある人に、最新のお薦め本にふれてもらう展示会です

読書の楽しさと読書環境の整備の大切さを伝えながら、北海道の図書に関わる人を結び、思いをつなげる情報誌

2019. 8
第10号
季刊発行

ぶっくらぼ



生涯学習時代の読書と図書館

社会教育・生涯学習の歴史～現状～展望
図書館と生涯学習の出会いと未来

本の仕事のキラリさん 墨谷 真澄さん

【制 作】一般社団法人北海道ブックシェアリング

【発 行 人】荒井 宏明

【後 援】北海道、北海道教育委員会、石狩市、新篠津村教育委員会、苫小牧市、苫小牧市教育委員会、厚真町教育委員会、安平町、滝川市、歌志内市、由仁町教育委員会、月形町教育委員会、北竜町、黒松内町、ニセコ町、喜茂別町教育委員会、京極町、倶知安町、神恵内村、積丹町、仁木町、当別町教育委員会、新十津川町、千歳市、赤平市、寿都町教育委員会、南幌町教育委員会、栗山町、岩見沢市、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、H T B北海道テレビ放送、T V Hテレビ北海道、S T V札幌テレビ放送、U H B北海道文化放送、公益財団法人日本図書館協会、株式会社図書館流通センター、一般社団法人まちライブラリー、北海道日本ハムファイターズ

一般社団法人北海道ブックシェアリングホームページ <http://booksharing.wixsite.com/bookshare>



特集 生涯学習時代の読書と図書館

明治期に「通俗教育」と呼ばれていた成人教育は、大正期に「社会教育」という名に。昭和に輸入された「生涯教育」（恒久教育や永続教育という呼称もあった）は、平成になって「生涯学習」に。それで定着・普及すると思いきや、なぜか「よく耳にする割には、イマイチ分からない言葉」の代表格になってしまいました。でも、イキイキもワクワクも脈々と受け継がれているのも確かです。生涯学習の酸いも甘いも噛みしめて、読書や図書館の未来に活かしちゃいましょう！

図書と読書に関わるひとが

生涯学習について学習することはムダじゃない

本誌発行人 荒井 宏明

生涯学習ってなに？

そう訊ねると、子どもばかりでなく、おとなからも「ユーキャン！」という答が返ってきます。日本の生涯学習の混乱や停滞、そして世界の生涯教育とのズレや遅滞をリアルに感じる反応と言えましょう。

べつに、株式会社ユーキャン（本社・東京、年商345億円）を悪者にしようってわけではありません。日本の教育産業市場の規模は約2.5兆円ですが、少子高齢化が顕著になれば、生涯学習のマーケットが有望視され、ビジネスチャンスで語られるのも無理からぬことです。

ですが「生涯学習＝通信講座での資格取得（あるいはお稽古ごと）」というわが国の一般的な認識と、EUなど

における「知識基盤社会への対応・整備のなかで、地域の生存戦略と個人への敬意を軸に語られる生涯教育の理念（※1）」とは、まるつきり別モノの感があります。

今回の特集は「生涯学習について、いままでキチンと調べたことがないけど、図書や読書の世界とも関わりがありそうだし、今後いつそう重要なテーマになるって荒井が言うのなら、ちよつと読んでみようかな」という読者を想定したうえで構成しています。社会教育や生涯学習の論客からは「もつと精度の高い切り口で語らぬか！」とお叱りを受けるかも知れませんが、先達の研究者や実践者にはご無礼な表現や論調などもあるかと思いますが、なにとぞご容赦のほどを。

一方で、専門家から「荒井さん、生涯学習なんてね、もう死語ですよ、死語」なんて厳しいコメントを頂いたり、と、あー、なんて複雑なのでしょう。ではあらためて。生涯学習とは一体なんでしょう？

1965年にユネスコ（国連教育科学文化機構）の第3回成人教育委員会で議長のポール・ラングランが「生涯教育の基本原理は学校教育と社会教育の統合である。また人間は幼児期から高齢期に至るまで、生涯にわたって学び、成長する可能性を持っている。その学習が保障されるべきである」と提唱。これにより「生涯教育」の理念が世界的に注目されました。

ラングランは、社会の諸相や課題を具体的に示して生涯教育の必要性を説

きました。(左図)

「人間、一生がお勉強です」というのは、どの国のどの時代でも言われてきましたが、要は、それをシステムとして真剣に考えなければならぬいほど、世の中が複雑になり、変化が加速

「生涯教育」提唱の背景となる社会的状況

- 変化の加速化（変化そのものより変化の速度）
- 人口増加と高齢人口増加などの質的变化
- 科学技術と知識の増加
- 政治への参加・関わり
- 情報化社会（国際化の伸張）
- 余暇（余暇時間の不平等問題）
- 生活様式と人間関係（階層社会の崩壊など）

してきたということです。

「学校教育だけでは到底、社会についていけない時代だよ」と言われているみたいで、あんまりうれしくない話ですが、一方で身分や地位に隸属しない「だれもが学びを通じて自己実現を図ることができる社会が来たんだよ」とも言えます。

そんな生涯学習時代における読書と図書館の役割やあり方についてじっくり考えてみましょう。特集の前半は「生涯学習」の成立から現状までを「これでもか」というぐらい深掘りし「こういう時代に生きられて幸せだよ」とか「しみじみ面倒くさいよね」とか、さまざまな感想を抱いていただき、後半では生涯学習社会における図書と読書のあり方を模索してみます。

また生涯学習の理念や言葉が、どこでどうねじれていったのかも明らかにしていきたいと思っています。

全国に比べると、北海道の自治体は「生涯学習推進計画」の策定が遅れ気味で「道民は自立した学びに関心がないの？」という声も出ています。

読者の皆様には「生涯学習社会」に熱い視線を向けていただきながら、今後の読書環境の整備における情報源として、本特集をご活用いただけたら幸いです。

※1 EUにおける生涯学習計画

知識基盤型社会の到来に対してEUは「欧州地域が世界の牽引となるには生涯学習が鍵」と捉え、1997年に実践プログラムとして「ソクラテス1」を開始。雇用の促進とヨーロッパ市民の育成を図った。2000年には雇用改善や社会的結束力を伴った持続可能な経済成長力を持ちながら競争力のある社会を目指す「ソクラテス2」を開始。なかでも成人教育をテーマにした戦略「グルントヴィー」による生涯学習の促進は世界的に注目されている。

ぜんぶひっくるめて生涯学習

生涯学習と学習権宣言

- 義務化された学び
- 制度化された学び
- 裁量に任された学び
- 自らの学び

生涯学習について最も重要なできごとは、ポール・ラングランによる「生涯教育」の提唱と、1985年のユネスコ国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」です。本特集で「生涯学習の理念」と記した場合、このふたつが指し示す内容だと考えていただければ幸いです。

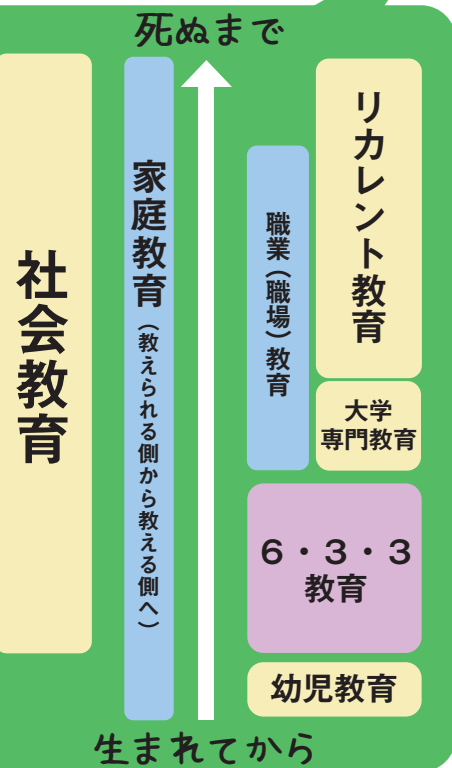
左の図はラングランの「生涯教育」提唱後の世界の「学びの潮流」に日本の教育制度を組み込んだものです。下には学習権宣言の抜粋を記しました。

ユネスコ学習権宣言（一部抜粋）

学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し、創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手だてを得る権利であり、個人的・集団的力量を発達させる権利である。

学習権は未来のためにとっておかれる文化的ぜいたく品ではない。それは、生存の欲求が満たされたあとに行使されるようなものではない。人間の生存にとって不可欠な手段である。学習権なくしては、人間の発達はいえぬ。学習活動はあらゆる教育活動の中心に位置づけられ、人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえていくものである。

それは基本的人権のひとつであり、その正当性は普遍的で人類の一部のものに限定されてはならない。



明治初期。開国した日本は欧米列強による侵略や植民地化に危機感を募らせ、「強国に対抗できるよう国力を高めよう」と、義務教育の浸透を推し進めました。「まず親世代に学ばせることで、子どもたちに教育を受けさせる意義と必要性を理解させよう」という方針のもと、明治10年、「通俗教育」の名で成人教育を導入。併せて通俗図書館という呼称の図書館を各地に建てました。また地域の「教育会」を主体とした講演会や講談会、幻灯会、活動写真などを通じて、啓蒙活動を進めました。

通俗教育は「不就学者ノ父兄ヲ感化スルニアルノミ」（森有礼文相、明治20年）とあるように、国民の関心を教

育に向けることが主な目的でしたが、日露戦争（明治37〜38年）や、大逆事件（明治43年）を機に、国民への「思想善導（思想教化）」が色濃くなり、通俗図書館も思想を統制する蔵書に置き換えられました。また教育全般に陸軍省が関わるようにもなりました。

そもそも文部省自体が明治から太平洋戦争末期まで、国民監視・国民統制を所管する内務省の支配下にありましたので、とき的情勢や省庁の意向で教育方針の軸足が大きく変わりました。

ですが、幻灯会や活動写真による啓発は、国威発揚ばかりではなく、産業や生活習慣、衛生面など、暮らしの向上につながるものも多く、後の公民館教育や生涯学習に通じる面もありました。



ワンプイント人物伝
森有礼
初代文部大臣

明治六大教育家のひとり。米国から帰国後「国民一人一人が知的に向上しなければならぬ」と啓蒙団体「明六社」を結成。大臣になってからはさまざまな学校令を發布。学びの近代化を推し進める。一橋大学の生みの親。暗殺により43歳没

大正10年、文部省は通俗教育を「社会教育」に改称。13年には社会教育課も新設しました。これも内務省主導だったといわれており、文部省の所管は普通学務局でしたが、都道府県では内務部に社会教育課が設置されました。現在の「自治体における生涯学習の所管が教育部局だったり首長部局だったたり横断部局だった」というわけにもちよつと似ています。

大正期後半には、国民の学びへの意欲が花開きます。明治以来の成人教育の枠を飛び越えた自発的な学習活動が

広がり、「大学」と呼ばれる講座や講演会が催され、各方面から招かれた講師が、哲学や文学、実業などを熱く語りました。

また、大正デモクラシーを追い風に、義務教育において「より自由で生き生きとした教育の創造を目指そう」と大正自由教育運動が展開されました。都市部ではガス、水道、電気、電灯の普及に伴い生活の質が向上し、雑誌や新

聞を読む人が急増。1冊1円の円本や、文学全集が流行し、市民が気軽に学びに親しめるようになります。

昭和に入ると状況は一変します。昭和6年の満州事変以降、教育は戦争の影響を浴び続け、社会教育は戦意高揚の教化網づくりと奉仕活動に集約されます。そして昭和17年には社会教育課そのものが廃止。

日本の生涯学習の歩みを辿る 戦後〜現在編

戦争が終わり、社会が安定を取り戻していくなかで、公民館設置運営要綱

が制定。昭和三十四年6月、社会教育法が制定。今日まで続く「社会教育行政」の基盤になります。同法は社会教育を「学校教育を除く教育活動で、主に青少年と成人を対象とし、体育やレクリ

エーションを含む組織的な教育活動」と規定しました。

25年に図書館法が、翌年には博物館法が制定。そしてこの年、日本はユネスコ（国際連合教育科学文化機関、1946年）に加盟します。このとき日本は、まだ連合国の占領下にあり



ワンプイント人物伝
寺中作雄
文部省社会教育局長

戦後の社会教育行政の基礎をつくった人物。成人教育課長時代の昭和21年「公民館設置運営要綱（通称・寺中構想）」を発表。これが敗戦後の社会の学習意欲に合致し、社会教育法（同24年）が整備される前に公民館が各地でつくられた

ました。国家としての全権を回復する前に加盟を認められたという実績は、



本会がキャンプ場で設営した「夜の図書館バス 野外読書コーナー」。ターフのなかに小上がりをつくり、カーペットを敷き、エアマットレスを置き、そ

の上に毛布を敷きます。日が暮れると子どもたちは、ランタンを傍らに、寝転がったり毛布にくるまったりしながら野外での読書を楽しみます

ここでひと息

北海道ブックシェアリングも生涯学習社会を意識して 本と読書の未来を模索しています

設立から12年、本会は「楽しく未来志向で本に親しむ！」をモットーに「本+なにか」とか「読書+どこか」など、本や読書に接続するさまざまなイベントや事業を考え、自らワクワクしながら実践してきました。「みんなで楽しむ読書」をつくり出しながら、新たな読み手を育てたいと考えています。

ビブリオバトルや読書会、読み聞かせなど、おなじみの事業もやりますが、本会のオリジナルっぽいところでは

①**走る本屋さん** 新刊の絵本と児童書を図書館車に積んで無書店自治体を訪問し、臨時本屋さんを開店。紙工作のテーブルなどを設置し、一日遊べる空間にしました

②**ブックストリート** 毎月最終土曜に、大塚銀座商店街の遊歩道に古書を3000冊並べて1冊100円で販売。本をテーマにしたイベントも盛り込み、子どもから高齢者まで満喫

③**夜の図書館バス** キャンプ場に図書館車を乗り入れて、野外図書館を設営。午後～夜10時まで開館。真っ暗ななかにポカリと浮かぶ図書館車に子どもも大人もワクワク

④**えほんそうせんきょ** その年に出版された絵本のなかから100冊を公民館の床に並べて展示。地域の方々に集まってもらい、人気投票でTOP10を選出します

⑤**迷路の図書館** イベントスペースのダンボール迷路の「入り口」と迷路の真ん中の「休憩エリア」の2か所に図書コーナーを設置。迷路に赴く子どもたちにそれぞれの図書を入れ替えてもらいます



⑥**絵本のばくりっこ** ばくりっこ（交換会）は北海道方言。おうちから絵本を1冊盛ってくれば、会場に用意した絵本のなかから好きな1冊と交換できます

⑦**絵本の表紙のはめこみパズル** 絵本の表紙でパズルづくり。カッターだと危ないので、レーザーカッターで自動カット。とても素敵な絵本のはめこみパズルが出来上がり

世界に目を向けます。ユネスコは発足時から成人教育のあり方について積極的に論議してきました。そして昭和40年、歴史的な発表を行います。第3回成人教育会議で議長のポール・ラングランが「生涯教育」を提唱。従来の成人教育の概念を塗り替えました。この会議に日本から参加した波多野完治

は深く感銘を受け、昭和47年に『生涯教育論』を発表。従来の社会教育行政に刺激的な一石を投じました。そして昭和60年。ユネスコで「学習権宣言」を採択。「学習権は基本的人権のひとつにして、人権中の人権」と高らかに謳いました。

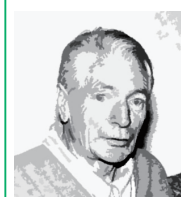
これら世界の潮流を受け、国内でも省庁を横断する論議が生まれました。そして平成2年に、日本で生涯学習に関する法律として「生涯学習振興法」が公布され、生涯学習という言葉が広がります。

でも、なぜ呼称が「生涯教育」から「生涯学習」になったのでしょうか。

国は「生涯教育」と行政システム（制度設計）の意味合いが強くなる。学ぶ側の主体性が重要なことから生涯学習とした」としています。背景には産業界の要請もあり「民間主導を視野に入

れた自己責任での学び」というタテマで、国の立場を振興支援に留めたのです。

マーケットがあまりにも頑張りすぎたせいか、ほどなく生涯学習は「通信教育の同義語」となり、理念は見事に矮小化されました。所管も一応は文科省ですが、経産省もウロチョロ、内閣府もウロチョロとあやふやです。で、相変わらず総務省（旧内務省）が諸々の権限を持っていたりと、なんだか明治から進歩していませんな。



ワンポイント人物伝
ポール・ラングラン
ユネスコ成人教育長

フランスの教育思想家。ソルボンヌ大学卒業後、教授に。1965年のユネスコ成人教育会議で提唱した「エデュカシオン・ベルマナント」（生涯教育）や、その後の精力的な成人教育活動で世界にその名を知られる。

明治以降の社会教育 生涯学習の動向

義務教育の動き

元年 日本初の小学校（沼津兵学校附属小）が開校
4年 文部省設置
5年 学制公布。6歳以上の男女に就学義務を宣言
12年 学制を廃止し、教育令を發布
19年 教育令を廃止し、学校令を發布。義務教育期間が4年に
23年 教育勅語を發布



15年 幼稚園令を發布
8年 小学校で国定教科書使用
16年 国民学校令を公布

20年 5月に戦時教育令を公布。10月に廃止
22年 教育基本法、学校教育法を公布。義務教育は小学6年、中学3年の6・3・3・4制に。学習指導要領を導入
23年 教育委員会制度を創設

28年 学校図書館法を交付
31年 全国学力調査を開始

10年 「ゆとり教育」開始
13年 文部省と科学技術庁を併せて、文部科学省に
14年 学校の完全週五日制施行へ



18年 教育基本法を改正。生涯学習の理念（第3条）を加える

社会教育・生涯学習の動き

3年 新聞や雑誌を備え、自由に閲覧できる新聞縦覧所が各所に誕生
5年 日本国初の公共図書館「京都集書院」開設
10年代〜大正期 一般国民に対する教育は「通俗教育」と呼ばれ、整備教育品展覧会、通俗教育談話会、幻燈会などが盛んに開かれた

21年 井上円了「館外員制度」を設け「哲学館講義録」を発行。日本における大学通信教育の先駆け
25年 山名次郎が日本初の社会教育論『社会教育論』を著す
32年 文部省が図書館令を發布

9年 文部省が地方学務課に社会教育事務担当者の特設を通達
10年 文部省が通俗教育を社会教育と改称
4年 文部省に社会教育局を設置
17年 文部省社会教育局を廃止

20年10月 文部省に社会教育局を再設置
23年 国立国会図書館法公布
24年 **社会教育法を公布**
25年 社会教育審議会令を公布。図書館法を公布。
26年 博物館法を公布。国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）に加盟
34年 社会教育法を一部改正。市町村の社会教育主事の必置を義務付け
46年 社会教育の在り方について」答申
47年 1965年のユネスコ会議に参加し、ラングランの発表に感銘を受けた波多野完治が『生涯教育論』（小学館）を著す
56年 中教審「生涯教育について」答申



2年 生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律「生涯学習振興法」を公布。生涯学習審議会を発足

9年 放送大学法改正案成立 翌年、放送エリアが全国化
13年 子どもの読書活動の推進に関する法律が成立。4月23日を「子ども読書の日」に
15年 地方自治法を改正。指定管理者制度を導入

海外の成人教育の動き

1889年 イギリスで「アボッツホルム・スクール」が創立。自主的で、主体的な活動を通して学ぶという公立学校と対極をなす学校として設立

1917年 アメリカで公教育として職業教育を実施する「スミス・ヒューズ法」が制定



1965年 第3回ユネスコ成人教育推進国際委員会議で議長ラングランが「生涯教育」を提唱。世界的な論議となる

1985年 第4回ユネスコ国際成人教育会議で「ユネスコ学習権宣言」を採択

1987年 EU生涯学習計画が開始。

1997年 EUが「知のヨーロッパに向けて」を発表。生涯学習を基盤とした「知識基盤型社会」構想を打ち出す

2000年 EUが成人教育関係者の研修やネットワーク作りを支援し、生涯学習を促進することを狙いとする政策「ダルトン・ヴィ」を開始



日本で出版されている「社会教育」あるいは「生涯学習」に関する書籍を読むと、共通して述べられていることがあります。述べられているというか、吐露や嘆きに近い感じです。

①この分野に関する制度・行政上の位置づけや評価は大変厳しく、予算や専門職員の削減が進んでいる
②民間への事業委託や指定管理などにおいて、理念や質を伴わない事業や運営に陥るケースが多い

③本来の業務と異なるニーズに対しても対応せざるを得ないケースが多く、人的・時間的なロスが大きい

これらは図書館や図書室、あるいは美術館や博物館など、文教・文化行政全般において、同じような思いを抱かれています。多いはずですよ。

一方、この分野特有の悩みとしては
④社会教育と生涯学習は、その理念や法令において本来、矛盾や拮抗はしないはずなのに、役所内での相互理解や情報共有が図られず、方針や運用を巡って混乱が生じる

⑤社会教育や生涯学習の「目指す姿」を自分ごととして受け止められる市民は驚くほど少ない

⑥社会教育・生涯学習とも「論理的に不要である」との声が小さくない

④は多くの自治体で見られる現象です。社会教育法が制度を詳細に規定（公民館や社会教育主事など）しているのに対し、生涯学習振興法は「地域の特性や状況に応じてがんばって盛り上げてください」という「振興のための施

策の推進体制等の整備に関する法律」です。頭使いたくないですから」とか「人生、ラクしてナンボやろ。学習なんてアホらしいって」などという日本人のなんと多いことか。「生涯学習の

策の推進体制等の整備に関する法律」です。頭使いたくないですから」とか「人生、ラクしてナンボやろ。学習なんてアホらしいって」などという日本人のなんと多いことか。「生涯学習の

公民館の総数は減ったとはい

え（平成11年18257館→同年14171館）、まだ8割以上の自治体が公民館を主体にした社会教育を実施しています。平成26年度の利用者は、

のべ約2億9百万人で、国民一人当たり年間2回弱、公民館を利用している計算です。昭和24年の社会教育法の施行、あるいは前身である明治10年の通

俗教育時代から連続と培われてきた国策の社会教育をいきなり「民間活力を睨みながら柔軟に」などと言っても簡単にはいきません。

⑤は、べつに市民の能力値や経験則を

どうして生涯学習がとっつきづらいのか？ その1 役場の所管のバラバラ感が・・・という声

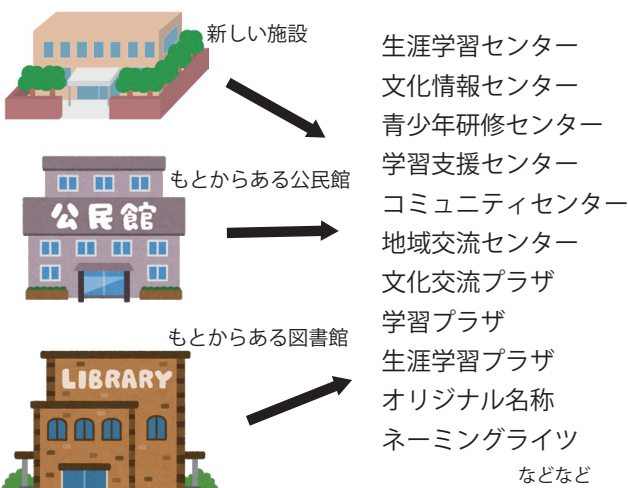
我が市では、生涯学習係は総務課で、社会教育係は教育委員会です
わが町では、教育委員会の生涯学習係のなかに社会教育担当がいます

わが町では、教育委員会の社会教育係のなかに生涯学習担当がいます
わが市では、社会教育係はありますが、生涯学習部門は指定管理のほうで

我が村では、生涯学習宣言をしています、生涯学習の名を持つ部署はありません



どうして生涯学習がとっつきづらいのか？ その2 施設の名称のバラバラ感が・・・という声



べつに難癖つけようってわけじゃないけど、北海道の生涯学習の拠点施設「北海道立道民活動センター（かでの2.7）」のホールが、ネーミングライツ（命名権販売）で、一時期「北海道鍼灸専門学校かでのホール」としていたのはどうかと思うよ。市民は「専門学校所有のホール」だと思うっしょ。かでは生涯学習が足りてないのと違うか？

目的は、自らを民主主義の担い手として学び育てること」などと言われても、目をパチクリさせるばかりです。北海道教育委員会の社会教育行政調査で

も、生涯学習の講座で「市民意識・社会連帯意識」に関する講座は増えてい

ません。また「行政が成人教育を用意すること自体がナンセンス」という専門家は、次のような論拠を挙げています。

公民館などで社会教育を実施する「社会教育主事」は国家資格で、社会教育法に則った役職。しかし、生涯学習については、社会教育主事が担当することもあれば、民間資格保持者や未経験者が担当することも少なくない。資格については、文科省の認定講座はあるものの、採用条件に挙げられることもなく、そもそも採用そのものが極端に少ない

どうして生涯学習がとっつきづらいのか？ その3 資格や役職の名称のバラバラ感が・・・という声

生涯学習インストラクター
生涯学習コーディネーター
生涯学習指導員
生涯学習指導者
生涯学習専門員
生涯学習推進員
生涯学習奨励員
生涯学習アドバイザー
生涯学習相談員
などなど



⑥については少々、込み入った話になります。そもそも「人の一生を国が教育していくってどうよ。それが民主国家といえるのか？」という意見は明治のころからありました。善導教育から軍国教育に、そしてある日を境に民主主義教育にコロっと変わった経緯からして、いつ善導や軍国体制に変わらないとも限り

A 社会教育や生涯学習の目指すのは、自らがまちづくりに参画できるような成熟した市民づくりである
B それらを担う公民館は「指導・援助」を前提とした施設である
C 明治から130年以上実施してきてもなお「指導・援助される側が膨大に存在し、今後も存在し続ける」という前提で制度設計されている社会教育に果たして意味はあるのか？
うーん。一理あるようなないような。どうですか、みなさん？
さて、なにかと悩ましい面も多い生涯学習ですが、現場での実施や運用に目を向けると、グイグイ引きつけられるような実践例も数多くありますので、そちらも見てみましょう。

日常に学びをちりばめた暮らし

上士幌町長
竹中貢さんに訊く



児童保育や子ども発達支援センター、図書館や会議室、さらには教育委員会や社会福祉協議会など複数の機能を備えた生涯学習センター「わっか」が2017年、上士幌町に開館した。役場の職員時代から生涯学習施策に積極的に関わり組んできた竹中町長の「上士幌における学びのあり方」について話を聞いた

わたしは上士幌町役場の職員として社会教育を担当していました。平成2年に生涯学習振興法が公布され、その翌年に係長として「上士幌町の生涯学習推進体制について」という報告書をまとめ、道の研究集会で発表しました。生涯学習自体が真新しい概念で、北海道全体でみると、この分野で動きを見せていたのは上士幌を含めて2〜3自治体しかありませんでした。生涯学習推進条例を制定したのも上士幌が道内第1号です。

いま町長として、わたしは「上士幌

はスロータウンである」と謳っています。ですから、学びも日常の中にさりげなくちりばめられているのが理想です。イキイキとした暮らしに学びは欠かせませんし、地域や世の中の課題を自分ごととして捉えられる姿勢も必要です。日々、なにげなく学びに接することができるとは、組織づくりが地方創生に求められているのです。

ICTの発達によって、地方にいても首都圏と同じレベルの情報に触れられます。5Gや4K技術によってテレワークが可能となり、田舎暮らしをど



【上士幌町】人口約5000人。十勝地方北部の大雪山国立公園の東山麓に位置する。日本一広い公共牧場「ナイタイ高原牧場」(東京ドーム358個分)や、全国各地の熱気球が集結するバルーンフェスティバルなどで知られる

④生涯学習の拠点施設となる「わっか」
⑤わっかに併設されている図書館

んどん魅力的なものに変えていく体制が整いつつあります。
学びの質の向上を考え続けることが、地域の未来を拓く重要なカギになると、わたしは考えています。



マシュマロを焼くことも学びのひとつ

幅広く骨太な成長を育む公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会の方法論とは？

主体的な参加こそが良質で持続的な学びを可能にする。しかし、能動的な学びには、きっかけや出会いが必要だ。社会教育の現場では、その仕組みづくりに頭を悩ませるケースが少なくない。公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会は、札幌で40年にわたって「参加する学び」を進めてきた。子どもたちが本質をぶつけあいながら体験する「発見の楽しさ」「挑戦して達成する喜び」「誰かと一緒に過ごした思い出」を学び続けるモチベーションにつなげている。

（竹次奈映・北海道ブックシェアリング）

札幌市で活動する公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会（以下、活動協会）は、子ども・青年・おとなのそれぞれを対象とした施設を運営し、利用者のニーズを引き出しながら「学びたい」という気持ちを育ててきた。

これまで日本の社会教育においては「学びⅡ講座（座学）」の印象が強かつ

たが、野外施設部長の岡本峰子さんは「五感を使って経験することで、生きるための学びになり、体験を通して人との触れ合いが、社会に関心を持つきっかけになります。最近あった野外活動の話ですが、マシュマロを焼くときに、刺した棒を短めに持っていたために、火に近づけられず、マシュマロがなかなか焼けないで困っている小さな男の子がいました。途中で、棒を長く持てば火に近づけられるということに気づきました。普段は炭火の熱さとか、マシュマロがどのくらい熱で焼けるかなんて考えませんよね。体験でしか感じられないことはたくさんあります」と話す。

活動協会のルーツをたどると「子どもたちがおとなになったときに、地域社会をつくっていただける人になってほしい」という思いにたどり着く。これは生涯学習の理念にも合致する。キャン

プ事業を数多く取り入れている背景には「キャンプは生活そのもの。原始的な方法で生活することでその人の本質が出てくる。本質をぶつけあいながら力を合わせることで成長につながる。人と人との関わりを理解し、構築する手段として最も効果がある」との考えがある。本音をぶつけ合って困難を乗り越えた経験は、おとなになっても課題を乗り越える力となる。仲間と一緒に挑戦することで、楽しかった経験を共有でき、関係性の大切さにも気づくことができる。

現在、活動協会は子どもを対象とした「青少年山の家」、青年を対象とした「若者活動センター」、若者から高齢者を対象とした「市民活動サポートセンター」などを運営している。注目すべきは「学んで活かすサイクル」が生まれている点だ。「山の家」に参加した子どもたちが大きくなって「青少

年センター」を利用すると、参加する側から企画・運営する側に立場が変わる。これまでの体験を活かし「どうしたら子どもたちや同世代に楽しんでもらえるか」を懸命に考えることで、学びを再点検し、活用につなげる。さらに年齢を重ねると「市民活動サポートセンター」を利用しながら、地域や社会を広く深く考える機会を得ることができる。

キャンプに参加していた子が成長して活動協会の職員となり、参加していたころの経験を活かしているというケースも珍しくないという。

生涯学習は、主体的に学ぶことによって幅広く骨太な成長を生み出す。発見や喜び、経験やつながり、さらに活用や応用によって「生涯にわたる学ぶ意欲」を持続している活動協会の取り組みは、多くの示唆を与えてくれる。

写真：活動協会が運営する「定山溪自然の村」で実施している「もりのとしょかん」

図書館は身近な存在

「生涯学習時代における図書館」について考えようといわれても、図書館関係者のなかには「そのテーマはお腹いっぱい！」という方も多いでしょう。ここ数年「これからの図書館のあるべき姿」とか「いま求められる図書館のあり方」などをテーマにしたレポートや書籍、フォーラム、研究会をいたる場面で見かけます。

なぜ？ 理由は簡単。図書館が身近な存在だからです。

文科省の「学習活動やスポーツ、文化活動に係るニーズと社会教育施設等に関する調査」(※1)の「生涯学習施設等の利用状況について」でも

図書館 43・2%

博物館・美術館 21・2%

公民館 19・2%

動物園・水族館・植物園 16・4%

と、図書館利用が圧倒的で、すべての年齢層で図書館が1位になっています。また図書館は、公共施設のなかで、最も延べ床面積あたりの利用率が高いといわれています(書架があれだけ床面積を占めているのに！)。

身近である例をもうひとつ。

もうすぐ2学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。マンガもライトノベルもあるよ。一日いても誰も何も言わないよ。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね。2015年8月25日の鎌倉市図書館Twitter(※2)

このツイートのなかの「図書館」と

変えても違和感のない施設を思い浮かべることが出来ますか？ 身近で、気軽に、一日いても息苦しくなくて、逃げ場所にもなる空間というのは、そうありません。「お腹いっぱい」と言わず、どうぞ「図書館と生涯学習の出会いと未来」にお付き合いください。

蔵書構成に着手を

生涯学習の目標のひとつに「地域の課題を解決できる人づくり」があり、図書館の対応も問われています。

これからの図書館には、住民の読書を支援するだけでなく、住民が日常生活をおくる上での問題解決に必要な資料や情報を提供するなど、地域や住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる。行政支援、学校教育支援、ビジネス(地場産業)支援、子育て支援等が考えられる。そのほか、医療・

健康、福祉、法務等に関する情報や地域資料など、地域の実情に応じた情報提供サービスが必要である。

これからの図書館の在り方検討協力者会議

公共図書館(図書室を含む)にこれを求めた場合、まず自らが解決すべき課題があります。「日本の公共図書館の蔵書は読み物の割合が異常に多い」ということです。とくに人口が少ない自治体ほど、この傾向があります。

左の表は全国の公共図書館の蔵書構成

日本十進分類構成比

0	総記	3.69%
1	哲学	3.19%
2	歴史	9.56%
3	社会科学	12.29%
4	自然科学	7.67%
5	技術	7.79%
6	産業	3.31%
7	芸術	10.1%
8	言語	1.84%
9	文学	40.47%

「公立図書館の蔵書構成比と貸出規則に関する実態調査」池内淳(筑波大学)中川恵理子(リブネット)(※3)

成をサンプリング調査したものです。蔵書規模ごとのデータでは、蔵書数の少ない館ほど9類の割合が増え「蔵書2万冊未満」では、なんと49%が読み物を占めています。

リクエストや貸し出しなど、目に見える利用実績に捉われすぎると、9類(文学)の割合がどんどん増えてしまい、いつまでたっても潜在的なニーズを掘り起こすことができません。

いま全国学校図書館協議会が学校図書館に「深い学びに対応できるよう、読み物ばかりでなくバランスのよい蔵書構成に」と呼びかけ、都道府県立図書館が公共図書館に「理科読(良質な自然科学系図書)の導入」を勧めるなど、読み物以外の充実を訴えています。

「図書予算は限られている。0〜8類を増やすなら読み物の購入を減らすしかない。それで利用が減ったかどうか？」との考えもありましようが、

市町村立図書館が「課題解決支援サービス」を実施した場合、利用増が56%、変化なしが30%、利用減が24%(ほかは不明か回答なし)という調査(※4)が出ています。

語れる場の設置を

会話のできる図書館が増えていきます。いいことです。ひと昔前なら、子どもが「お母さん」と呼びかけただけで「静かにさせろっ」と叱りつける利用者がいて、図書館職員もあえてそれに口を挟まない、という光景があたり前にあったのですが、そういう図書館はもう消えていいと思います。

生涯学習の時代です。職員と利用者が敬意と理性と常識に基づいて、許容

※3 公立図書館の蔵書構成比と貸出規則に関する実態調査 www.msliis.jp/presentation/2009IKEUCHI.pdf

※4 公立図書館における課題解決支援サービスに関する報告書 <https://www.library.metro.tokyo.jp/pdf/zenkouto/pdf/2015all.pdf>

※1 学習活動やスポーツ、文化活動に係るニーズと社会教育施設等に関する調査(概要)

www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/002/siryou/06031707/002.htm

※2 鎌倉市図書館 Twitter https://twitter.com/kamakura_tosyok/status/636329967668695040

できる会話・談話と、許容できないバカ騒ぎを峻別できるような仕組みにしていくなが必要があります。

「学びを深める」には、対話が欠かせません。小さく音楽や環境音を流して、声をマスキングするのも効果的です。無音を必要とする人には別途、読書室を用意して、そちらに移動してもらうか、あるいは借りて家で読むようにしてもらいましょう。

会話のない図書館ぐらいつまらないものはありません。会議室やワークスペースを用意して、よりいつそうじっくり討議・議論してもらうぐらいの姿勢が必要です。

小さな館だからできる取り組み

課題解決型図書館に関する調査を見ると「導入や整備が進まない理由」として公共図書館が挙げるのは職員不足と予算不足です。日本図書館協会では、

高度な図書館を担う人材を育成しようと、技能や知識が秀でた経験豊かな司書を「認定司書」とする制度を発足しました。しかし小規模自治体の多くでは、認定司書どころか「貸出しカウンターの人材確保すらままならない」という厳しい状況に置かれています。

「うちの図書館は小さいから生涯学習なんてとても」と思われている方も多いと思いますが、わたしは小さいほうが手のかけ甲斐があると思います。

例えば、小規模自治体がICタグによる自動貸出機を導入した場合、メリットはふたつあります。ひとつは人手の軽減。もうひとつは「課題解決に関する書籍を借りやすくなる」ことです。小さな町では「離婚」や「転職」「遺産相続」「重病・難病」に関する本が借りづらいという声を耳にします。カウンターの職員が顔見知りだったりすると「小説すら恥ずかしくて借りられ

ない」という人も少なくありません。自動貸出は「借りた本の記録がいつさい残らない」ということも知ってもらえれば、さらなる利用につながります。

蔵書構成では、0～8歳の棚に絵本・児童書を積極的に配架するのもあります。いま絵本や児童書の充実が読み物にとどまりません。LGBTやSDGsに関連など、大学の講義で使いたいぐらいよくできています。装丁も明るく、棚が親しみやすくなります。

そして人手です。本の移動や点検だけでなく、読書活動の導入や選書、郷土資料・文献の収集から管理・保存まで、さまざまな専門ボランティアやNPOが包括的に支援する体制をつくることによって、地域で生涯学習の機運が高まり、理解や交流が生まれます。

生涯学習社会という上質で真っ白な紙に描かれる地域の姿こそが、住民が目指す未来なのではないでしょうか。

たとえば

世界の問題を考える時、

世界に何人の人がいるのかを知っておいたほうがいい。ところが、考える土台となる基礎事項を私たちは案外知らない。2019年、世界には77億人の人がいる。でも、これで安心してはいけない。世界の人口は1年で8200万人増える。今を生きていく私たちは、読書を通し、常に自分をバージョンアップしていく必要がある。

作家、編集者
原 正和

生涯学習 と読書

生涯学習の説明に

「豊かな人生をおくることが

できるよう」とある。私は、人を豊かにするのは、よい人との出会いだと思っている。そして、本との出会いは、人と出会うきっかけを広げるものだと考えている。本は面白い。同じ時代を生活している人が考えていることを知り、過去の人からのメッセージを読み解く。

私たちが、未来の人へ繋げていく
歯車となるのだ。

まちライブラリー@
千歳タウンプラザ
久重 薫乃

わたしの見解

インターネットの登場

により、だれもが簡単に調べ、
学ぶことができるようになりました。

ですが、ネットの即席情報では深く学ぶことはできません。人々が主体的に学び進めるためには、学ぶ楽しさに気づく必要があります。本や読書はその気づきにつながる存在でなければいけないと思います。

一社)北海道ブックシェアリング
企画部主任
竹次 奈映

読書というのは

極めて個人的な行為であり、

生涯学習というのもしかりであると

思います。しかし、これだけ新自由主義による自己責任論が蔓延り、日本社会（日本に限りますが）が、気持ち悪い方向に進んでいる昨今、個人知と世界知をつなぐ共同知や、リベラルアーツの在り方が問われていると痛感しています。その時に、図書館の役割は物凄く重要なのですが・・・

図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター
慶應義塾大学講師
編集工学機動隊 GEAR 代表
太田 剛

本に関わる仕事で、キラリと輝くひとをご紹介します

本の仕事の キラリさん



今回ご紹介するのは、苫小牧市沼ノ端でブックカフェと古書店を営んでいる、墨谷真澄さんです。



じゃんまめ書房
ブックカフェ 豆太
墨谷 真澄さん

Q、ブックカフェをオープンしようと思ったきっかけと店名の由来を教えてください

5年前、主人が急逝し何も考えられないなか、生前主人と話をした夢物語の会話、「定年後は本屋なんかいいなあ。俺は店名は『じゃんまめ書房』が良いと思う」等々を思い出し、勝手に遺言と決めて店を始めることにしました。「じゃんまめ」は大学時代2人でやっていたサークル名「じゃんぼと豆太の人形劇」から、主人が考えたものです。

Q、お店の特徴を教えてください

じゃんまめ書房は古本と雑貨のお店です。じゃんまめ書房の奥がブックカフェ豆太です。挽きたてコーヒーを飲みながら、ゆっくりとした時間を過ごしていただいています。

Q、墨谷さんが特にこだわっていることを教えてください

大切にしているのは「物語」です。本の中にある「物語」、お客さんお一人おひとりの「物語」、そしてこの店で新しく生まれる「物語」を大切にしていきたいと思っています。

Q、お店にはどんなお客様が来ますか

0～80歳代の方まで本の好きな方や、いろいろなことに興味を持った方々が来てくださっています。お気に入りの本を読んでいただいたり、またその方たちの交流の場にもなっています。

Q、これから取り組んでみたいことを教えてください

ださい

本を取り巻く環境が大きく変わっています。子どもから大人まで、本や物語に出会ってもらえるよう、古くて新しい企画や方法を模索中です。

Q、豆太の人気の本またはおすすめの本を紹介してください

中高生から大人まで幅広く読まれているのは、マンガ『ゴールデンカムイ』です。マンガと共に、中川裕著『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』（集英社 新書 900円・税別）も読んでいただくとより楽しめると思います。

Q、豆太の印象的な出来事や思い出があれば教えてください

お店を始めたころ、若い女性が店内を見て「私は本は読みませんから」と言われたのですが、コーヒーを飲みながら何気に近くににあった本を手にとられ…約1時間後には「本っていいですね。本屋に寄ってから帰ります」と笑顔で店を出て行かれたことがありました。印象的な思い出で、今でも忘れられません。

じゃんまめ書房 ブックカフェ豆太

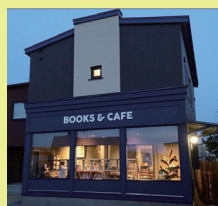
住所：苫小牧市沼ノ端中央3丁目 13-17

電話：0144-55-0726

営業時間：水・木・金 正午～午後6時

土日 午前10時～午後6時

定休日：毎週月・火曜日



【ゆるレファとは】読書や図書にかかわるあれやこれやをテーマに「参考（レファレンス）」となる資料を用意し、ゆるやかに深掘りする勉強会です。要となるレファレンス資料は、ずばり「人」です。テーマに詳しい専門家をお招きして、「語る資料」になっていたという、一風変わった集まりです。
(写真は第1回の様子)

北海道ブックシェアングでは「ゆるレファ！」という小規模の勉強会を定期的に開いています。2019年2月の開催では「生涯学習と社会教育の違いはなに？」をテーマに11人が集まり、2時間にわたって学びあいました。本会代表の荒井がレファレンス役を務め、生涯学習の歴史を振り返りながら、ポール・ラングランによる生涯教育やユネスコ学習権宣言、生涯学習振興法などの文言を読み、現状や今後の課題について意見を交わしました。



参加者の意見・疑問・感想

生涯学習振興法はあくまでも「振興法」であり、学びを実現できる制度ではないのですね。自主的に学びあう場を作ろうと思っても、公的な援助を受けづらいのは残念です



日本全体が「目に見える効果がすぐに表れる知識」を求める傾向にあり、学習権の趣旨と逆行しているように感じます。友人に「読書なんて役に立つ？」と聞かれることが多いです



生涯学習振興法の「学習の成果が適切に評価される」という文言に違和感があります。評価するための学びになってしまい、今は成果と効率が最優先される学びになっているのでは？

などなど多くの意見や感想が交わされました



今回のゆるレファのテーマは「書店がなくなる!？」

■日時 2019年9月8日(日) 午後2時～

■会場 札幌エルプラザ(札幌市北区北8西5) 情報センター

■参加費 500円

申込：電話 011-378-4195 メール bookshare001@yahoo.co.jp

生涯学習をテーマに勉強会を開きました



特集「生涯学習時代の読書と図書館」関連本・お薦め本

価格は税込です

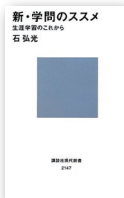


新版 生涯学習と地域社会教育

末本誠・松田武雄著 春風社

2010年8月 2,674円

社会教育や生涯学習の全体像を掴むのに好適。内容の多彩さとの確かな見解は、社会教育主事の研修会でも使われるほど



新・学問のススメ

生涯学習のこれから

講談社現代新書

石弘光著 講談社

2012年3月 799円

元放送大学学長である著者が、同大の改革に取り組みながら考え続けた生涯学習のあり方が語られる



ふるさと創生—北海道土曜町のキセキ

黒井克行著 木楽舎

2019年4月 1,404円

本特集で登場する竹中貢町長による先駆的な施策を紹介。道内自治体で生涯学習施策をリードしてきた同町における「学び」が読める



放送大学大学院教材

生涯学習の新たな動向と課題

立田 慶裕著

放送大学教育振興会

2018年3月 3,024円

生涯学習社会について知りたいのならばこれ。受講テキストだが、書籍としても完璧



LIFE SHIFT (ライフ・シフト)

リンダ グラットン他著

東洋経済新報社 2016年10月 1,944円

世界でベストセラーにはわけがある。このなかに答を探すのではなく、探し始めるきっかけにしたい



下流志向〈学ばない子どもたち 働かない若者たち〉

内田 樹著 講談社文庫

2009年7月 670円

学力低下やニート増加は社会に原因あるのではなく、本人たちの意志だという刺激的な論で話題に

賛助会員にぶっくらぼをお届けします

北海道の読書環境の整備を進めるために、賛助をお願いしています。情報誌ぶっくらぼや活動報告書などをお送りいたします

■年間 3,000円 (何口でも可)

【振り込先】

郵貯銀行 振替口座 02730-6-97461

北海道ブックシェアリング

【お待ちしております】

みなさんからの声(図書や読書に関する意見や提言、本誌の感想)をお待ちしています。お寄せいただいた意見や感想は、当会の活動やぶっくらぼ制作の参考にさせていただきます。左の白抜きに記載している本会事務局まで、メールまたはファクスでお送りください。



HPのQRコード



ブログのQRコード

次号は
2019年11月
発行です

編集後記

個人の立ち位置や世の中での扱われ方は、身分社会や家柄社会学歴社会など、その時代の「モノサシ」によって指し示されます。◆ですが、情報が地球をこれだけ狭くしてしまつと世界がムラ化し、求められる資質としては非常にシンプルな「生き抜くチカラ」が前景化してきます◆では現代の、そして未来の「生き抜くチカラ」はどのようにすれば溜められるのでしょうか◆そう考えると生涯学習は、知識基盤社会におけるサバイバルツールであるはずなのですが、日本では○○コーディネーターや○○ソムリエの免状を手に入れる「余暇利用」と同義で固着してしまいました◆でも、そろそろ誤解を引つ剥がす頃合いです◆図書に関わるものとしては、とても興味深い時代になってきました